

その他の調査の進捗状況について

1. 観光資源価値向上の検討に係る調査
2. 定点観測調査
3. 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討

1 観光資源価値向上の検討に係る調査

1.1 調査の目的

本調査は、「漂着ゴミの回収が、観光資源としての海岸の価値向上にどの程度寄与するのか、その結果として地域の観光経済にどのような効果をもたらす可能性があるのか」を明らかにすることを目的とする。

なお、観光経済に効果をもたらす要素としては、「海岸のきれいさ」以外にも施設の整備、広報・誘致など様々なものが考えられる。したがって、ここでテーマとする「漂着ゴミの回収によって海岸がきれいになった場合の観光経済上の効果」は、極めて限られた断面からの分析にとどまるものであり、本調査で得られた結果が経済効果の全てを表すものではない。

1.2 調査内容及び調査方法

図 1に本調査の内容とその流れを示す。本年度は仮想トラベルコスト法により観光資源としての価値の評価を行う。また、その評価結果に基づいて、直接効果のみに絞った簡易な手法(図 2)を用いて経済効果の推定を行う。調査対象地域は沖縄県の石垣島とする。また、石垣島での結果を参考に、本調査で用いた手法の福井県の東尋坊周辺地域への適用可能性等を検討する。

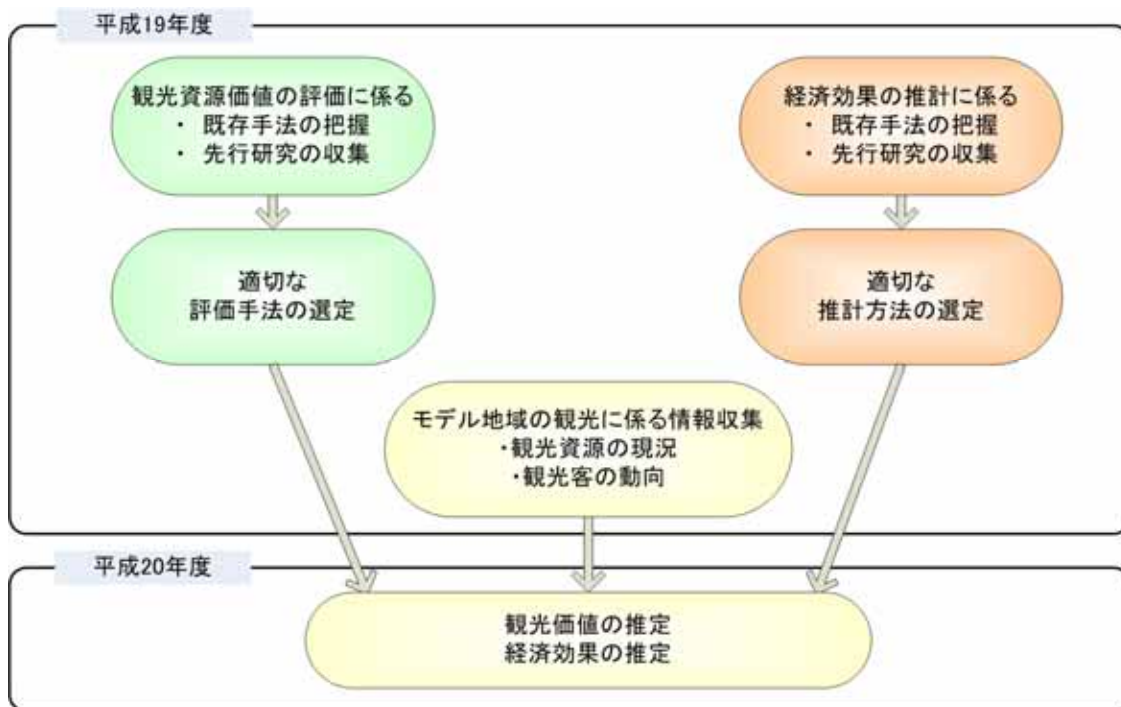


図 1 観光資源価値向上の検討に係る調査の作業フロー

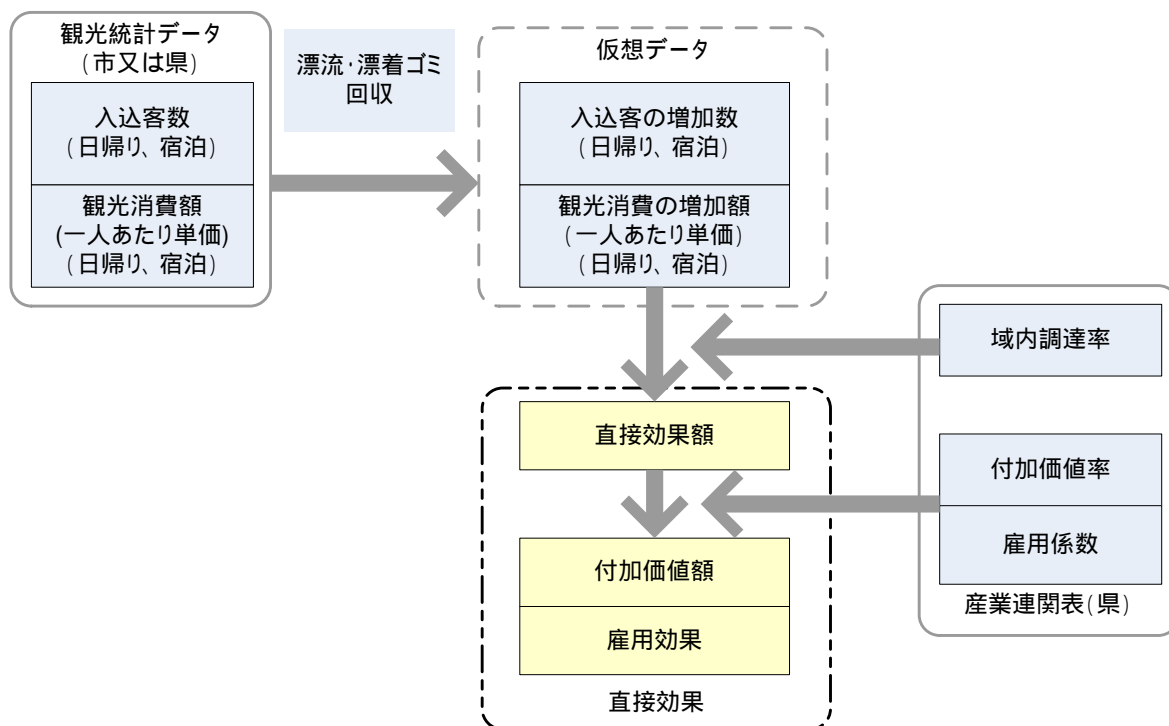


図 2 本調査における経済効果（直接効果のみ）の推計の流れ

1.3 調査設計

1.3.1 調査設計の検討

仮想トラベルコスト法及び経済効果の推計にはアンケート調査を実施し、データを収集する必要がある。アンケート調査の実施方法を以下に示す。

発地点（オフサイト）調査と着地点（オンサイト）調査

両地点での調査を実施する。ただし、オフサイト調査は、3大都市圏(東京、大阪、名古屋)を対象とする。

サンプリング対象

オンサイト調査：現地訪問中の観光客(200 サンプル)

オフサイト調査：3大都市圏の住民(200 サンプル。うち、石垣島への訪問経験者を 100 サンプル、未経験者を 100 サンプルとする)

アンケート配布方法

オンサイト調査：手渡し配布回収方式

オフサイト調査：インターネット

調査時期

プレテスト：6月（50 サンプル、インターネットでの調査）

本調査：7～8月（海岸利用の多い観光シーズン）

1.3.2 アンケート票

調査に用いるアンケート票(案)の概要を図 3に示す。ここで示すアンケート票(案)は、オンサイト調査を想定したものであり、オフサイト調査においては、これを適宜調整したものを使用する。

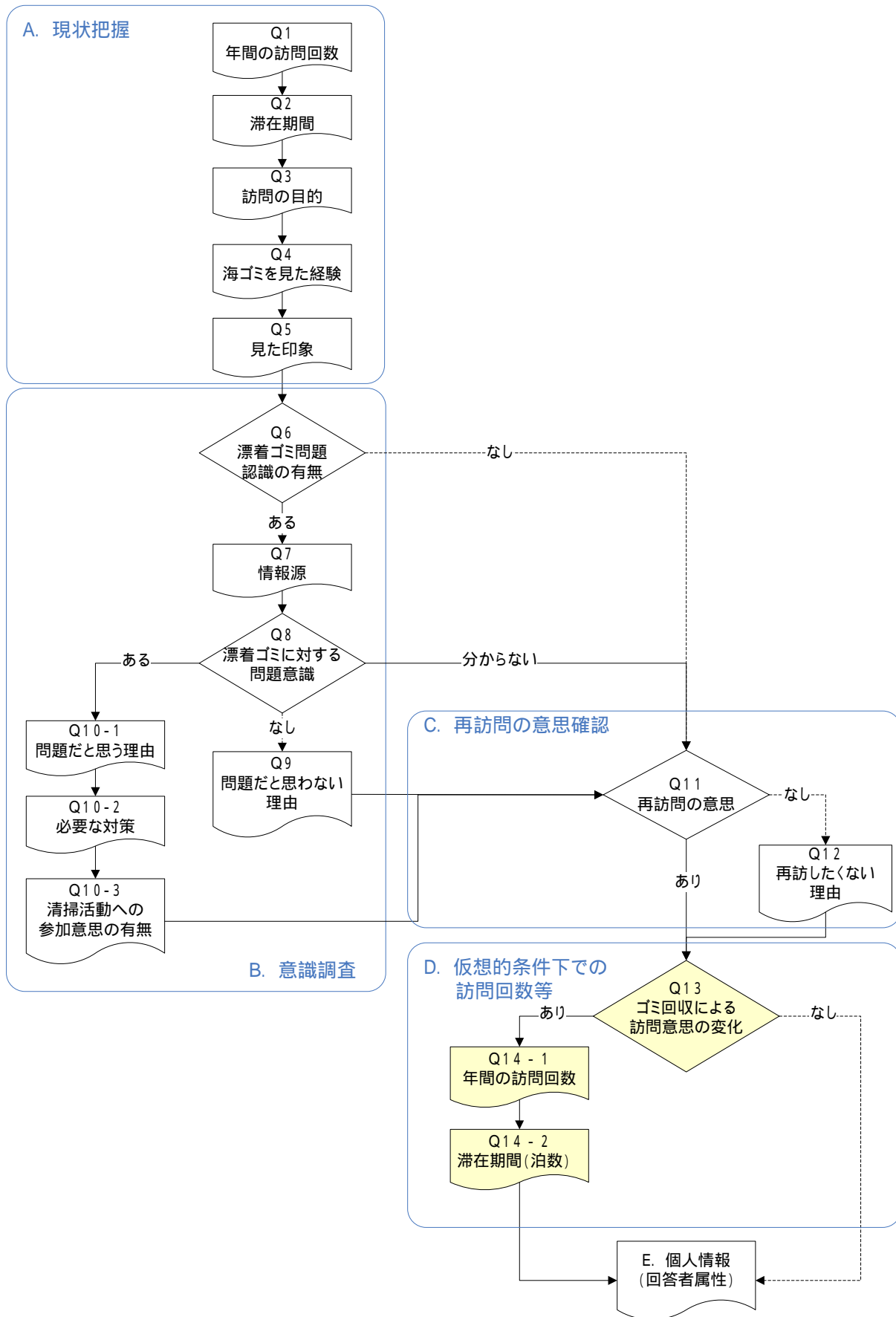


図 3 アンケート票(案)の概要(オンサイト用)

2 定点観測調査

2.1 調査目的・内容

2ヶ月毎のクリーンアップ調査期間におけるモデル地区のゴミ漂着状況を補完するため、二の浜海岸及び越前松島水族館前を対象にデジタルカメラによる定点撮影を実施した。二の浜海岸は平成19年9月5日より、毎週1回を原則として撮影を行った。一方、越前松島水族館前については平成19年11月23日より一日一回を原則として撮影した。

撮影は、二の浜海岸及び越前松島水族館前をそれぞれ検討員の阪本氏及び鈴木氏に依頼し、実施して頂いた。



図 4 定点観測地点

2.2 調査結果

2.2.1 二の浜

平成20年1月2日～平成20年5月21日までの定点撮影結果を以下に示す。



平成 20 年 1 月 2 日



1 月 30 日



1 月 9 日



2 月 6 日



1 月 16 日



2 月 13 日



1 月 23 日



2 月 20 日



2月27日



3月26日



3月5日



4月2日



3月12日



4月9日



3月19日

第4回クリーンアップ調査



4月23日



5月21日



4月30日



5月7日



5月14日

2.2.2 越前松島水族館前

平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 4 月 23 日までの定点撮影結果の内、大きな変化が見られた写真を以下に示す。



平成 20 年 1 月 1 日



1 月 29 日



1 月 13 日



2 月 4 日



1 月 22 日



2 月 13 日



1 月 24 日



2 月 16 日



2月25日



4月4日



3月1日



4月6日



3月15日



4月14日



3月30日



4月23日

3 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討

3.1 目的

漂流・漂着ゴミ問題の取り組みにあたっては、関係者の情報交換の場を設置し、ネットワーク化を進めていくことが重要である。全国レベルにおける連携強化のみならず、地域レベルにおける連携強化も重要な課題であり、とくに近傍の河川がゴミの発生源となっている可能性のある地域においては、河川流域全体の関係者の連携を強化することが有効である。本調査では、河川流域における NPO/NGO および自治体が一同に会し情報交換をする場の設置可能性について検討し、平成 20 年度の流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催に資することを目的とする。調査の概要を図 5 に示す。

3.2 調査内容

平成 19 年度の調査結果を踏まえて、福井県九頭竜川流域を対象として流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)の準備を進める。ワークショップの開催は平成 20 年秋以降(予定)とし、それにより参加者の有する知見やノウハウを共有するとともに、流域のゴミ問題に関する課題について議論する。

3.3 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)の概要(案)

(1) ワークショップの位置づけ・目的

平成 19 年度の検討結果から、九頭竜川流域においてゴミ問題を取り扱う団体はいくつかあるものの、現時点ではそれらが集まって流域全体のゴミ問題の対策を検討するといった段階に達しているわけではないことが推察された。まずは少数の核となりうる団体から情報発信を行い、関心のある人々に受け止めてもらうことにより、裾野を広げ全体の底上げをしていくことが必要な段階にあると考えられる。一方、平成 19 年に国土交通省主催で開催された「九頭竜川“水・交流サミット”」では、流域の首長による意見交換等が行われ、ゴミ問題も含めた流域の課題について、今後、関係機関が協力して広域連携を進めていくことが行政レベルで確認されている。

そこで、本業務では対象を民間のゴミ問題に関する関係団体として、

- ・ 最終的にゴミが流れ着く河口や海岸の現状を知ってもらうこと
- ・ 流域でのゴミ問題に関する取組・課題について情報を共有すること
- ・ 今後の対策に向けて緩やかなネットワークを形成していくこと

を目的とするワークショップを開催する。

(2) 参加者の候補

- ・ 流域・沿岸域の環境 NGO/NPO (エコネイチャー彩みくに、NPO 法人ドラゴンリバー交流会等)
- ・ 流域においてゴミ問題や街美化に関わる NGO/NPO、ボランティア団体
- ・ 坂井市街作り協議会
- ・ 関係行政機関 等

(3) 開催時期

2008 年 11 月～12 月

(4) 場所

福井市内

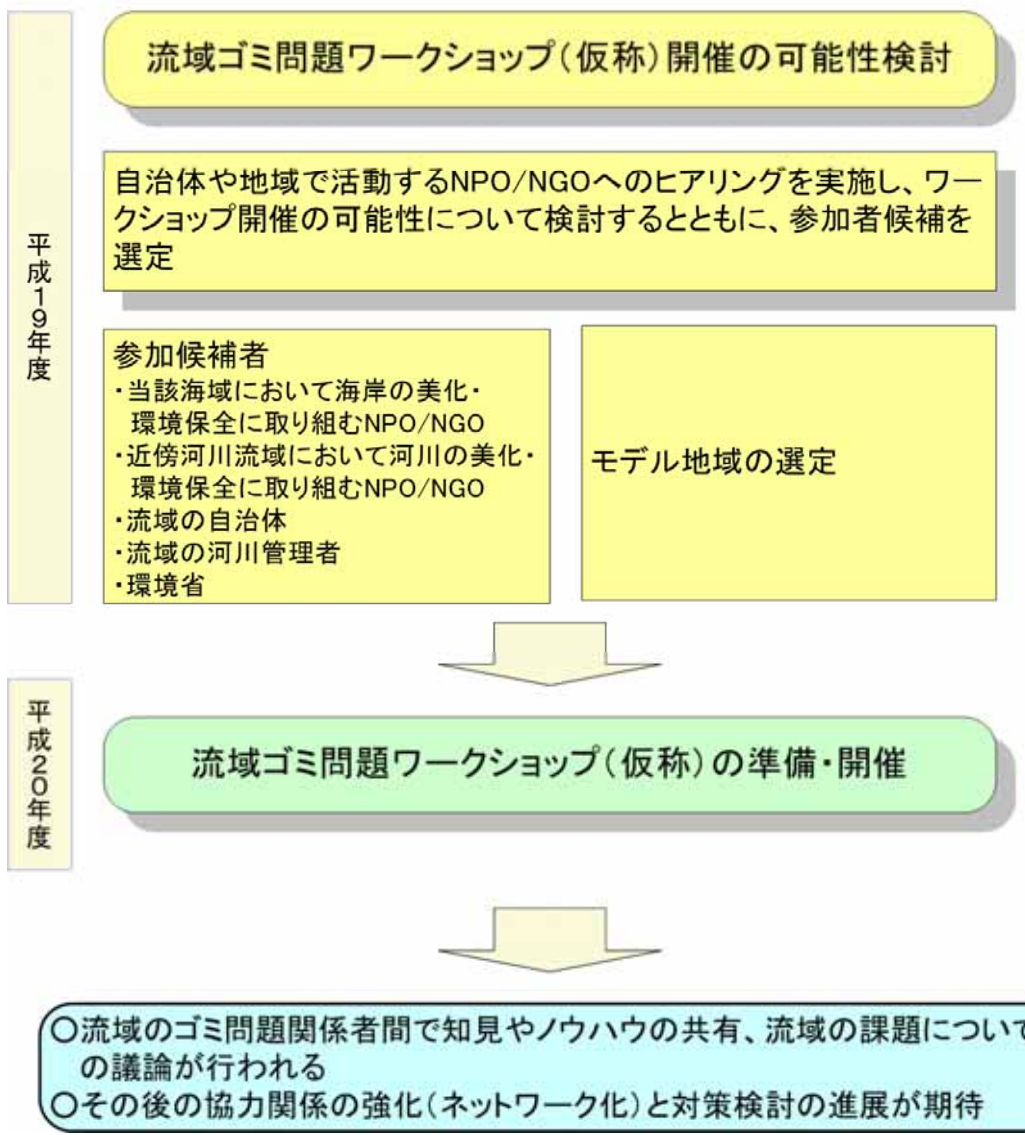
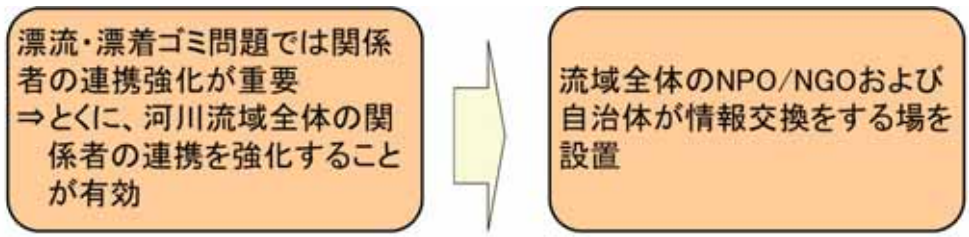


図 5 流域ゴミ問題ワークショップ(仮称)開催の検討の概要